

『朝鮮博物學會講演集』『朝鮮博物學會雜誌』総目次 ～日本統治下朝鮮におけるナチュラルヒストリーの実践・覚え書き(1)～

通堂 あゆみ

社会科（九州大学韓国研究センター学術共同研究員）

要 旨

日本統治下の朝鮮半島で組織された朝鮮博物学会の活動を紹介し、会誌『朝鮮博物學會講演集』『朝鮮博物學會雜誌』の総目次を掲載する。朝鮮博物学会には日本人・朝鮮人中等学校教員が多数参加し、調査研究の成果を発表した。朝鮮半島居住者のみならず、満洲など「外地」や「内地」の教育研究機関関係者、また必ずしも研究者ではない人々も会員として参加し、会誌は交流の場となっていた。京城帝国大学医学部関係者を中心に、医学分野の専門研究成果も掲載されていることから、植民地医学研究においても参照が必要な資料でもある。

Keywords: 博物学, 植物相, 動物相, 植民地フィールドワーク, 植民地医学,
(朝鮮総督府の)林政, 感染症防遏, 医動物学

朝鮮博物学会とは

本稿が紹介するのは日本統治下の朝鮮半島において設立された朝鮮博物学会 Chosen Natural History Society の会誌総目次である。「博物学」は一般的に Natural History(自然史／自然誌)を指し、動植物を中心に自然界を広く対象とする分野である。詳細は後述するが、『朝鮮博物学会雑誌』には主に朝鮮半島の植物相・動物相の記述や、在朝鮮の研究機関における生物・医学分野の研究成果が掲載されている。

博物学は旧制の教育課程における教科名称でもあった。中学校の教科科目として「博物(動物, 植物, 鉱物)」が定められており¹, 朝鮮博物学会が組織されるきっかけとなったの

¹ 「中学校令施行規則」明治三四(1901)年文部省令第三号。なお 1931 年に教科科目名は「理科」と改められた(昭和六年文部省令第二号)。女子を対象とする中等教育機関である高等女学校では博物に対して理科の名称が用いられていた(高等女学校施行規則, 明治三四年文部省令第四号)。近代理科教育史の側面から朝鮮博物学会に言及する研究として宋珉煥「韓国理科教育の成立と展開」(東京都立大学大学院・学位請求論文, 1997 年)がある。

は、韓国併合の前後期から朝鮮半島の中等教育機関²に勤務していた日本人教員らの活動であった。『動物學雑誌』280(1912年3月)には次のような記事が掲載されている。

●朝鮮博物學會 京城に於ける中等學校の博物教師及び昌德宮博物館員等は飯塚博士[引用者補：飯塚啓³]の行ありしを機とし、昨年九月十六日夜『ソントク』ホテルに同博士を招待し博物學の講話を聞きたるが出席者は桑原、森、齋藤、柴田、長谷、平井、岡田、下郡山等の諸氏にして從來兩三回同好の研究者集會して朝鮮における動植物の研究を重ね居たるも未だ會の名稱を附せざりしが今回を以て愈々朝鮮博物學會なるものを組織し協力して朝鮮に於ける動植物を研究することに決定したりと。

(下線は引用者による)

文中に挙げられた名前は桑原護一[京城女子高等普通学校]・森為三[京城高等普通学校]・齋藤欽二[京城高等普通学校]・柴田勝次[京城女子高等普通学校]・長谷了慶[京城高等普通学校]・平井(土居)寛暢[総督府中学校]・岡田信利⁴[李王職⁵]・下郡山誠一⁶[李王職]と推

² 日本統治下の朝鮮における教育は1911年に公布・施行された(第1次)朝鮮教育令が「朝鮮ニ於ケル朝鮮人ノ教育」を定めた。この教育令は「内地(日本人)人」を対象とせず、朝鮮人の教育機会すなわち普通学校(「内地」の小学校に相当。修業年限は4ないし3年)・高等普通学校(「内地」の中学校に相当。修業年限は4年)・女子高等普通学校(「内地」の高等女学校に相当。修業年限は3年)等を定めたが、修業年限は「内地」の学校に比べて短縮されていた。1922年に朝鮮教育令が改正される(第2次朝鮮教育令)と、「国語ヲ常用スル者」は「内地」の諸学校令に準拠する学校で、「国語ヲ常用セサル者」は普通学校(修業年限6年、短縮可)・高等普通学校(修業年限5年)・女子高等普通学校(修業年限5ないし4年)で教育を行うこととされた。専門教育や大学教育については「内地」準拠とされた。1938年の改正(第3次朝鮮教育令)で学校名称は小学校・中学校・高等女学校に統一された。日本統治下朝鮮の中等教育については崔誠姫『近代朝鮮の中等教育—1920～30年代の高等普通学校・女子高等普通学校を中心に』(晃洋書房、2019年)を参照。なお森為三や長谷了慶のように韓国併合以前に大韓帝国政府の聘用に応じて朝鮮に渡った例も見られる。森の経歴については拙稿「京城帝国大学予科・ふたりの自然科学者—森為三と竹中要にみる近代日本植物学研究の進展と「帝国」の学知—」(松田利彦責任編集『植民地帝国日本とグローバルな知の連環 日本の朝鮮・台湾・満洲統治と欧米の知』思文閣出版 2025年)参照。

³ 飯塚啓「朝鮮動物採集談」(『東洋時報』162, 1912年3月)でも同内容の記述を確認できる。飯塚は東京帝国大学理科大学に学び、1910年に学位を取得した。京城を訪問した当時は学習院教授であった(「飯塚博士略伝」『自然科学と博物館』10-2[110], 1939年)。

⁴ 岡田信利(1857-1932年)。杉田玄白の曾孫にあたる。箕作麟祥の塾で学び、東京師範学校生物學教室、東京大学動物學教室等に勤務。山口高等中学校勤務等を経て1909年に李王職技師として朝鮮に渡り、動物園の管理を担当した。1927年9月には京城帝大解剖學教室嘱託となる。参考：谷津直秀「岡田信利氏」(『動物學雑誌』524, 1932年)、土井康弘「動物學者、岡田信利研究序説—架蔵する「岡田信利關係資料」の紹介をかねて—」(『一滴(津山洋學資料館 洋學研究誌)』32, 2025年)。

⁵ 李王職とは韓国併合後、王公族とよばれた韓国皇室の家務を掌る機関である。宮内省の管轄

測される⁷。

これは 1911 年の活動を知らせる記事であるが、本格的に朝鮮博物学会が組織され、活動が始まったのは 1923 年秋と見られる。『動物學雜誌』432(1924 年 10 月)では「本會[引用者補：朝鮮博物学会]の設立は去年の末のこと」と記され、「既に展覽會や講演會等も二三回行はれ」たこと、その成果として二つの印刷物⁸が発行されたこと、会員が百余名に達したことなどが紹介されている。『朝鮮博物學會講演集』第二輯に掲載された「朝鮮博物學會會務報告」によると創立總會⁹は 1923 年 10 月 21 日（於京城第一高等女学校）で、この場で会則を制定して役員を選出している。会則では事務所を「當分¹⁰ 京城第一高等普通学校¹¹博物教室に置くことを定め(第 2 条)、「本會ハ博物學ヲ考究シ斯學ノ普及ヲ圖リ特ニ朝鮮ニ於ケル事項ヲ調査スル」ことを目的として掲げた(第 3 条)。会員資格はとくに定めず、門戸を広く開いていたが、「役員ノ決議ニヨリ斯道ノ先覺者及名望家ヲ推薦シテ名譽會員」とすることや、「本會事業ニ對シ特ニ功勞アル者及多額ノ金品ヲ寄附シタル者ヲ推薦シテ特別會員」とすることが定められていた(第 8 条)。会費は明確に定められていないが、会計報告から推測すると、当初は年会費 2 円¹²、1929 年 10 月以降は 3 円であった¹³。

学会創立当初¹⁴の役員は次のとおりである。

会長：川崎繁太郎[朝鮮総督府地質調査所]

副会長：小林晴治郎[朝鮮総督府医院]

であったが、朝鮮総督の監督下に置かれた。参考：新城道彦「李王職の編成と長官・次官・事務官の略歴—王公族研究の基礎データ」（『韓国研究センター年報』11，2011 年）。

⁶ 下郡山誠一(1883-?)。1904 年東京帝国大学第一臨時教員養成所博物科卒業。生物学担当として第一高等学校教授、大阪府立北野中学校勤務を経て 1908 年宮内省博物調査事務嘱託・御苑事務局嘱託として朝鮮に渡る。1911 年李王職技手(のち技師)。参考：『朝鮮人事興信録』（朝鮮人事興信録編纂部，1935 年）p.227，『朝鮮功勞者名鑑』（民衆時論社・朝鮮功勞者銘鑑刊行会，1935 年）p.247，前川公秀『博物館の近代—朝鮮総督府時代の様相』（雄山閣，2022 年）。

⁷ 各人の[]内所属は 1911-1912 年度の朝鮮総督府職員録および官報で確認した。

⁸ 会の創立を記念して 1923 年 10 月 21 日～25 日に京城第一高等女学校において開催された「朝鮮博物学会博物標本展覽會」に関する『朝鮮博物學標本展覽會出品目録』（1923 年 11 月），『朝鮮博物學會講演集』第一輯(1924 年 7 月)のことである。

⁹ 創立總會は「大正十三年十月二十一日」に開催されたと記載されている（『朝鮮博物學會講演集』第二輯，p.97）が、「大正十二年」の誤植と考えられる。

¹⁰ 1939 年に京城帝大医学部微生物学教室に移転した（『朝鮮博物學會雜誌』25，1939 年）。

¹¹ 第 3 次朝鮮教育令(昭和 13 年 3 月 4 日勅令第 103 号)により京城第一高等普通学校は京畿公立中学校となり，第 23 号より表記が変更されている。

¹² 「會報・會務報告」（『朝鮮博物學會雜誌』3，1925 年）。

¹³ 「會報・會務報告」（『朝鮮博物學會雜誌』11，1930 年）。

¹⁴ 1923-1924 年度。1924 年 10 月 27 日に開催された第 2 回總會では役員の重任を決定している。

幹事：岩村俊雄[京城第二高等普通学校]，梶原梅次郎[京城第一高等普通学校]，
加藤晴秀[京城中学校]，河野宗一[京城師範学校]，
小原外幹[京城女子高等普通学校]¹⁵，三明和郎[京城第二高等女学校]，
尹丙燮[延禧専門学校]，山内正人[京城第一高等普通学校]，
森為三[京城帝国大学予科]

名誉会長：長野幹[朝鮮総督府学務局長]¹⁶

名誉会員：西村保治[朝鮮総督府殖産局長]，志賀潔[朝鮮総督府医院長]，
篠田治策[李王職次官]

役員の中心は主に中等学校教員であり，朝鮮総督府の技師や医官¹⁷の名前も確認できる。
役員(幹事)のほとんどを日本人が占めたが，朝鮮人役員が皆無であったわけではない。初期幹事として加わった尹丙燮[윤병섭]は延禧専門学校を卒業し，オハイオ州立大学で畜産学を修めた後に母校・延禧専門学校や徽文高等普通学校で教鞭を執った人物である¹⁸。のち第5回総会(1927年10月)において元洪九[원홍구]が，第7回総会(1929年11月)において趙福成[조복성]が加わった。その後1939年からは石宙明[석주명]が加わったとみられる¹⁹。元洪九は鳥類学者として，趙福成と石宙明は昆虫学者として韓国ではよく知られた人物である²⁰。

¹⁵ 小原は第三回総会で幹事を外れた(「會報・會務報告」『朝鮮博物學會雜誌』3，1925年)。

¹⁶ 1924年12月1日に李軫鎬が学務局長となり，名誉会長も交代した。

¹⁷ 朝鮮総督府医院所属の志賀潔や小林晴治郎は1926年に京城帝国大学が設立されると，医学部教授として異動した。京城帝国大学創設および初期人事については松田利彦「京城帝国大学の創設」(酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房，2014年)を参照。

¹⁸ 尹丙燮の経歴については이정前掲論文 p.216 注 45 参照。1924年には高等普通学校博物科の朝鮮総督府検定教科書『中等教育動物学新教科書』『中等教育植物学新教科書』『中等教育生理衛生新教科書』を発行していることが確認できる(『朝鮮総督府官報』第3535号，1924年5月28日)。

¹⁹ 総会記事は確認できないが，1939年11月24日現在の会員名簿の役員欄に幹事として名前が掲載されている。

²⁰ 山階芳麿「私の履歴書(13) 採集旅行余話」には1936年の朝鮮での調査の際に元洪九の協力を得たことが記されている(日本経済新聞，1979年5月9日)。「内地」在住の山階も朝鮮博物学会会員であった(1934年入会か)。元洪九の息子・元炳旼[원병오・ウォンビョンオ]も鳥類学者として知られる。また，石宙明寄贈の昆虫標本が九州大学大学院農学研究院に保管されていることがわかり，2024年11月に韓国の学術誌で公開・九州大学がプレスリリースを行った(廣渡俊哉「韓国のフェアブル」石宙明の昆虫標本が九州大学に現存～戦前の朝鮮半島の環境の推定・希少種の保全に期待～ <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/1188>)。日本語で読める論文としては文晚龍(宮川卓也訳)「国籍をもつ科学?—「朝鮮的生物学者」石宙明のチョウ分類学」(『生物学史研究』82，2009年)，柴谷篤弘「石宙明」「再説・石宙明」(『やどり

創立から約1年後の1924年11月時点での会員数は122名、1929年に200名を超え(普通会員207名、名誉会員4名²¹⁾、1939年には250名を超えた(普通会員261名、名誉会員6名²²⁾。確認できる最後の名簿(1944年時点)²³⁾では普通会員252名、名誉会員5名の257名の氏名・所属が記されている²⁴⁾。

会員の多くは朝鮮半島内の中等学校～大学・研究機関職員であったが、入会者は次第に「内地」の各地域、さらには台湾・関東州といった「外地」の教育・研究機関にも拡大し、図書寄贈交換の範囲も同様に広がりを見せている。名誉会長や名誉会員として朝鮮総督府本府の官僚らも名前を連ねている(歴代学務局長が名誉会長に選出される)ことから、朝鮮博物学会は在野の *naturalist* を広く包摂する民間の活動でありつつ²⁵⁾、「御上の御墨付き」をも得ようとしていたともいえよう。

学会の活動

朝鮮博物学会は1～2ヶ月ごとに例会を開き、会員が相互に報告を行うほか、動植物の採集会を通じた交流や、おそらくは非会員をも対象とする「通俗講演会」が企画されることもあった。年に一度開催される総会では、会の運営に関する報告や決議が行われるほか、講演会や標本類・写真の展覧会が開催されたり、実験の実演なども行われたりしていた。1932年7月には初等・中等学校教員を対象とする「理科(博物)実験講習会」を開催している。京城帝国大学予科教授・大学講師や水原高等農林学校教授、朝鮮総督府の試験場技師らが講師を務め、中等学校教員が28名、初等学校教員が92名参加したとの記録が見られる。なお、参加費は1円であった(朝鮮教育会からの補助金300円も得ている)。

こうした催しに実際に参加できたのは京城近郊居住者に限られたのであろうが、それぞれの活動は『朝鮮博物學會雜誌』に「會報」として報告記事が掲載されているため、遠方の会員も会誌を通じて情報を得ることができていたと推測される。総会および例会での講

が』123・128, 1985・1987年)がある。

²¹⁾ 会務報告では214名と報告されるが、会員氏名録で確認できるのは207名の普通会員と4名の名誉会員である(『朝鮮博物學會雜誌』9, 1929年)。

²²⁾ 朝鮮博物學會々員名簿(『朝鮮博物學會雜誌』27, 1939年)。

²³⁾ 朝鮮博物學會々員名簿(『朝鮮博物學會雜誌』10-39, 1944年)。

²⁴⁾ 이정(イ・ジョン)は博物学会会員数について、1926年は174名(このうち朝鮮人は21名)、1938年は308名(同43名)と記し、朝鮮人会員もほぼ同比率で増加したと述べている。이정「식민지 조선의 식물 연구(1910-1945)―조일 연구자의 상호 작용을 통한 상이한 근대식물학의 형성(植民地朝鮮の植物研究(1910-1945)―朝・日研究者の相互作用を通じた相異なる近代植物学の形成)」(ソウル大学校大学院・理学博士学位請求論文, 2012年8月), p.215。

²⁵⁾ 이정は「朝鮮博物学会はアマチュアを排除して専門家集団としての地位を高めることより、博物学を維持することができる基盤を広げることが急務であったようだ」と推測している。이정前掲論文, p.215。

演・報告タイトルについては本校紀要次号に「本統治下朝鮮におけるナチュラリストリーの実践・覚え書き(2)」として掲載予定である。

学会の刊行物

学会刊行物としては『朝鮮博物學標本展覽會出品目録』(1923年11月),『朝鮮博物學會講演集』第一輯(1924年7月)・第二輯(1924年12月),『朝鮮博物學會雜誌』第3号(1925年12月)～第40号(1944年9月)の現存を確認できる(なお,『朝鮮博物學標本展覽會出品目録』・『朝鮮博物學會講演集』および『朝鮮博物學會雜誌』第3～24号は大韓民国・国立中央図書館がデジタル化し,web上で公開している²⁶⁾。『朝鮮博物學會雜誌』が第3号から始まるのは先行する『朝鮮博物學會講演集』を第1・2号と見なすためである²⁷⁾。第3号から第27号までは各号が独立していたが,第28号以降は2年分の「号」をまとめて「巻」ごとに通しページが付されている。さかのぼって第1号～第27号も全6巻に整理された²⁸⁾ため,全体としては次のような構成となっている。

第1巻第1-3号,第2巻第4-9号,第3巻第10-14号,第4巻第15-19号,
第5巻第20-22号,第6巻第23-27号,第7巻第28-29号,第8巻第30-32号,
第9巻第33-37号,第10巻38-40号

【参考】分野別の論文数

地質学・古生物学	9
動物	233
植物	50
原生生物	11
その他	8
合計	318

※合計は311

『朝鮮博物學會雜誌』には「原著」のほか,「雑録」「抄録」「会報」「名簿」等を掲載する。原著は「博物學上ノ創意的ノモノ」,雑録は「之[引用者補:原著]ニ準ズルモノ或ハ博物學上有益ナル記事」と区別している²⁹⁾。李炳勛・金辰泰は「朝鮮博物学会誌(1924-1944:1-40号)」の掲載“論文”を318編と数えているが,これは原著・雑録等を区別せず『朝鮮博物學會講演集』『朝鮮博物學會

出典:李炳勛・金辰泰(1994) p.90 表3

²⁶⁾ 国立中央図書館は朝鮮總督府図書館(1923年「朝鮮總督府圖書館官制」公布,25年開館。館長は荻山秀雄)の蔵書を継承している。参考:田中福太郎「韓国のデジタルアーカイブとその利用」(『東洋文化研究』19,2017年)。今回,総目次作成にあたっては東北大学附属図書館北青葉山分館および九州大学理系図書館所蔵のものを閲覧・利用した。お世話になった関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

²⁷⁾ 「會報・雜誌發行ノ件」(『朝鮮博物學會雜誌』3)。

²⁸⁾ 「但し之等の第1-27號の中から参考文献として引用される場合には,巻を用ひずに號だけを採録して下さる様願ひます」とある(「朝鮮博物學會雜誌目録(第1—27号)」『朝鮮博物學會雜誌』7-28)。

²⁹⁾ 「寄稿規定(自昭和十二年九月實施)」(『朝鮮博物學會雜誌』22)。

雑誌』すべての掲載記事を数え上げたものと考えられ³⁰、筆者の集計では『朝鮮博物學會雑誌』掲載の「原著」論文は218編である。参考までに李炳勛・金辰泰による整理を紹介するが、表中の数字にも不整合があることには注意を要する。

さて、原著論文は内容により大きくふたつに分類できる。ひとつは朝鮮～満蒙地域における動植物の分布や分類に関するもの(新種の報告や、植物相・動物相の記述等)であり、朝鮮半島を中心とする「外地」におけるフィールド調査の結果が報告されている。もうひとつが実験研究の成果報告であり、主には京城帝国大学医学部関係者、とくに微生物学教室の担当教授や教室員によるものである。

前者において精力的に成果を発表した代表的な人物として森為三、趙福成、石戸谷勉、石宙明、土居寛暢、村山釐造が挙げられる。森・趙福成・石宙明・土居寛暢は皆教員であり、中等学校での教育に従事する傍ら³¹調査を進めたが、石戸谷と村山は本職の活動すなわち朝鮮総督府の調査事業・林政とも大きく重なっていた。石戸谷は1906年に札幌農学校林学科を卒業し、朝鮮総督府技師として林業試験場や殖産局山林課に勤務し、植物学者・中井猛之進からの指導も受けていた³²。こうした職務の中で『朝鮮森林樹木鑑要』(鄭台鉉と共編、朝鮮総督府林業試験場、1913年)や「朝鮮漢方薬科植物調査書」(中井猛之進『朝鮮鷲峯[平安北道咸鏡南道界]植物調査書』合綴、朝鮮総督府、1917年)を発表していた。京城帝国大学が設立されると予科において授業を担当したほか、医学部薬理学第二講座(担当教授：杉原德行)の講師として漢薬研究に従事したことも知られる。

村山も1906年に東北帝国大学農科大学林学実科を卒業し副手を務めたのち、朝鮮総督府営林廠(本廠は平安北道新義州府に置かれた)技師として朝鮮に渡った。台湾総督府農林専門学校教授(1922年より高等農林学校)・中央研究所技師として台湾での勤務経験(1921-24年)も持つ³³が、1925年には再び朝鮮に戻り、林業試験場技師を務める傍ら、昆虫研究を進めた³⁴。彼のキクイムシやコガネムシに関する研究は害虫防除、より具体的に

³⁰ 李炳勛・金辰泰「西洋近代生物學의 國內導入에 관한 연구—동물분류학을 중심으로(西洋近代生物学の国内導入に関する研究—動物分類学を中心に)」(『한국동물분류학회지(韓国動物分類学会誌)』10-1, 1994年)。

³¹ 1926年の大学学部在先立ち、1924年に京城帝国大学予科が開設されると森為三は理科担当教員(初年度は講師、25年度より予科教授)として着任、1930年度からは趙福成も雇員として博物教室に勤務している。石宙明は、職位は不明ながら医学部微生物学教室に関わり、1943年に大学附属の生薬研究所濟州島試験場が開設されるとそちらに異動した。

³² 石戸谷については愼蒼健「フィールドワークと実験室科学の接合—京城における薬理学研究」(坂野徹編著『帝国を調べる—植民地フィールドワークの科学史』勁草書房、2016年)、이정前掲論文、第4章「植民地知識交流と市場：植民地朝鮮の薬材分類家 石戸谷勉」参照。

³³ 台湾での調査研究の成果は『臺灣博物學會會報』(台湾博物学会発行)や『熱帯農學會誌』等に発表していることが確認できる。

³⁴ 『官報』(第1321号・1906年12月26日、第2745号・1921年9月24日、第3415号・1924

は造林用苗木の食害を防ぐためのものでもあった³⁵。1938年には満洲にわたり、南満洲鉄道株式会社総局産業課事務嘱託・参事としてここでも研究を続けている³⁶。

彼らのフィールド調査報告類は『朝鮮博物學會雑誌』に限らず、「内地」の諸雑誌(『動物學雑誌』『鳥』『昆蟲』『昆蟲界』『ゼフィルス』等)にも掲載されており、活発な活動の様子がうかがえる。

後者の実験研究の成果を発表した京城帝国大学医学部微生物教室(微生物学第一・第二講座)は、大学設立計画時より「朝鮮特殊ノ疾病」研究遂行のために必要であると認識され、感染症研究を担っていた部署のひとつ³⁷である。第一講座(細菌学)を担当し、初代医学部長を務めたのは赤痢菌の発見で知られる志賀潔、第二講座(寄生虫学)を担当したのは肺吸虫(肺ジストマ)の感染経路解明で知られる小林晴治郎であった。予防医学や感染症研究は帝国日本の朝鮮統治・衛生政策とも密接に関係する課題であり、志賀や小林が大学着任以前に勤務していた朝鮮総督府医院にも1916年に伝染病及地方病研究科が設けられていた³⁸。

この講座の営為は植民地医学研究においても注目されるが³⁹、小林晴治郎やその教室員らが医学専門誌ではない『朝鮮博物學會雑誌』にも研究成果を発表していたことはほとん

年1月14日)、森津孫四郎「村山醸造先生をしのんで」(『昆蟲』45-1, 1977年)。

³⁵ 村山醸造「昆虫と私」(『インセクタリウム』9-8, 1972年)。

³⁶ 『満洲紳士録 第3版』(満洲資料協会, 1940年)。村山は戦後、山口大学農学部教授を務めた。朝鮮半島・中国北部での歴年の研究成果は『満鮮金亀子図説 第一巻』(日本学術振興会, 1954年)としてもまとめられている。大日本帝国の敗戦により満洲国からの標本類・調査研究資料の持ち出しも不可能となったが、村山は「内地」引揚後に連合国軍最高司令官総司令部天然資源局勤務となったことから、同局局長・課長らの配慮により資料を手にすることができたという。「自序」(前掲『満鮮金亀子図説 第一巻』)。

³⁷ もうひとつは石戸谷勉が講師を務めていた薬理学講座(計画当初の名称は薬物学講座, 1931年に改称)であった。第一講座は杉原徳行が、第二講座には大澤勝が着任した。京城帝国大学医学部における漢薬研究については前掲慎蒼健「フィールドワークと実験室科学の接合」、同「日本漢方医学における自画像の形成と展開—「昭和」漢方と科学の関係」(金森修編著『昭和前期の科学思想史』勁草書房, 2011年)等を参照。

³⁸ 松田前掲「京城帝国大学の創設」、拙稿「京城帝国大学医学部の植民地的特徴考察のために」(酒井哲哉・松田利彦編『帝国と高等教育—東アジアの文脈から(国際シンポジウム42)』国際日本文化研究センター, 2013年)。志賀については松田利彦「志賀潔と植民地朝鮮」(『翰林日本学』25, 2014年)、同「志賀潔とロックフェラー財団—京城帝国大学医学部長時代の植民地朝鮮の医療衛生改革構想を中心に—」(松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』思文閣出版, 2019年)参照。

³⁹ 戦前の寄生虫学研究機関のほとんどは台湾・朝鮮・満洲に置かれており、「[引用者補:「内地」の]伝染病研究所と植民地とのあいだに形成されたネットワーク」において「医動物学」が成立したことが指摘されている。瀬戸口明久「医学・寄生虫学・昆虫学—日本における熱帯病研究の展開」(『科学哲学科学史研究』1, 2006年)。飯島渉『マラリアと帝国—植民地医学と東アジアの広域秩序』(東京大学出版会, 2005年)、任正燦「京城帝国大学医学部の組織構造と研究活動」(『朝鮮大学校学報』33, 2023年)等。

ど知られていないのではないか⁴⁰。彼らの原著論文発表や研究例会での報告からは、伝染病研究所以来の寄生虫疾患防遏という課題への取り組み、「外地」の帝国大学医学部における「医動物学 Medical Zoology⁴¹」の展開が如実に表れるが、「博物學ヲ考究シ斯學ノ普及ヲ圖」るという学会の目的からはやや乖離も感じられる。とはいえ、微生物学教室は研究成果の発表のみならず、学会運営にも大きく関与していた。すでに見たように学会事務所は当初京城第一高等普通学校に置かれていたが、1939年には京城帝大医学部微生物学教室に移転した。編集部も景福公立中学校(第2次朝鮮教育令下での旧名は京城第二高等普通学校)をへて京城帝国大学医学部微生物教室へ移転したことが確認できる。小林晴治郎およびその門下生が朝鮮博物学会運営の中心となり、医学部関係者にとっては例会や会誌が「都合の良い」研究発表の場となっていた可能性を指摘できる。京城帝国大学医学部の他教室からも論文投稿や報告が行われていることが確認でき、『朝鮮博物學會雜誌』は今後の「植民地医学」研究においても参照が必要な資料であるといえよう。

最後に、『朝鮮博物學會講演集』『朝鮮博物學會雜誌』に講演や雑録類を含む原稿を掲載した京城帝国大学関係者(所属が大学となっている者)を紹介する。医学部以外では、森為三と同じく予科教授であった竹中要(専門は細胞遺伝学)が実験系の論文を報告している⁴²。寄稿は確認できないが、研究例会や総会では杉原德行(教授・薬理学第2講座)、鈴木清(助教授・解剖学第1講座)、水島治夫(助教授・衛生学、予防医学講座)も口頭報告・講演を行っている。また、朝鮮総督府技師(地質調査所)であった木野崎吉郎は理工学部設置後、1944年12月に教授に任じられ鉱物地質学講座を担当した⁴³。

本研究は JSPS 科研費 JP22K02232 の助成を受けたものです。

* * * * *

⁴⁰ 京城帝国大学医学部の研究活動については李賢一「京城帝国大学医学部の研究活動—その学術誌の分析を中心に」(『アジア太平洋研究科論集』17, 2009年)があるが、分析対象とされたのは京城医学専門学校および京城帝国大学医学部の紀要である。

⁴¹ 瀬戸口前掲「医学・寄生虫学・昆虫学」参照。

⁴² 竹中については拙稿前掲「京城帝国大学予科・ふたりの自然科学者」参照。

⁴³ 『官報』第5386号1944年12月27日。

『朝鮮博物學會講演集』『朝鮮博物學會雜誌』京城帝国大学関係寄稿者⁴⁴

〈予科〉

教授 竹中要，森為三

その他 趙福成[雇(博物教室勤務)]

〈医学部〉

教授・助教授・講師等

志賀潔[微生物学第 1 講座]，細川正一[微生物学第 1 講座]，小林晴治郎[微生物学第 2 講座]，田邊操[助教授・微生物学第 2 講座]，石宙明[微生物学教室・生薬研究所濟州島試験場所員]，大澤勝[薬理学第 1 講座]，津崎孝道[解剖学第 2 講座]，綿引朝光[衛生学，予防医学講座]・水島治夫[衛生学，予防医学講座]・中村拓[医化学講座]，佐藤武雄[法医学講座]，島五郎[助教授・解剖学第 3 講座]，石戸谷勉[講師・薬理学第 2 講座]，岡田信利[講師・解剖標本整理等に従事]

教室員

福田眞杉[助手・微生物学第 2 講座]，中田薫[助手・微生物学第 2 講座]，長花操[助手・微生物学第 2 講座]，沖波實[助手・微生物学第 2 講座]，芝(大森)昇[助手・微生物学第 2 講座]，本多大輔[助手・微生物学第 2 講座]，高宮勇[専攻生・微生物学第 2 講座 ※岩井内科学教室・大澤勝のもとで博論作成]，神田哲[職位不明・微生物学教室 ※大澤勝(薬理学第 2 講座)が研究費援助]，宮永宗男[職位不明(岩井内科教室出身か)・微生物学教室]，増井正幹[職位不明・微生物学教室]，三宅博[職位不明・微生物学教室]，竹森勇[職位不明・微生物学教室]，齋藤兵治[職位不明(伊藤内科出身)・微生物学教室]，小倉勝千代[京城医専出身。専攻生・小林晴治郎のもとで博論作成]，保田宗武[専攻生(土橋小兒科教室出身か)・小林晴治郎のもとで博論作成]，黒田嘉一郎[助手・医化学講座]，志水眞澄[助手・外科学第 1 講座 ※佐藤武雄(法医学講座)のもとで博論作成，小林晴治郎とも共著論文あり]

* * * *

⁴⁴ 所属は会誌に原則として会誌に記載のもの。『京城帝国大学一覽』各年度，『紺碧遙かに一京城帝国大学創立五十周年記念誌』（京城帝国大学同窓会，1974 年）で職位や所属を確認できる者は情報を追加した。職位不明者は，医学博士論文準備のために大学施設を利用していた非公式研究員の可能性がある。医師免許保有者の基礎分野教室利用については拙稿「医師免許保有者の帝国内移動と京城帝国大学一専攻生制度に注目して」（『史潮』81，2017 年）参照。

朝鮮博物學會講演集

第一輯（1924 年 7 月 ※奥付 8 月 10 日発行）

- 肺ダストマの話……………小林晴治郎（1）45
歐米の自然科学博物館と學校及社會教育との關係……………森爲三（19）
朝鮮の昆蟲相に就きて……………岡本半次郎（30）

（以上、大正 12 年 10 月 21 日創立總會に於ける講演）

- 朝鮮慶尚北道延日及長鬐地方の第三紀植物化石(豫報)……………立岩巖（36）

（大正 12 年 12 月 8 日例会に於ける講演）

第二輯（1924 年 12 月 ※奥付 12 月 28 日発行）

- 地質學上より見たる生命の起源……………早坂一郎（1）
血清の話……………志賀潔（10）
朝鮮に産するマツタケムシ及其寄生蜂に就て……………高木五六（19）
有尾兩棲類ノ滑車神經ニ就テ……………津崎孝道（35）
家蠶ノ内分泌ニ就キテ……………梅谷與七郎（43）
生物學ヨリ見タル「イオン」及水素「イオン」濃度……………大澤勝（57）
一印度象屍ニ就テ二三ノ觀察⁴⁶…………津崎孝道・川田信平・小林晴治郎・綿引朝光（69）⁴⁷
象ノ剖檢記事……………殖産局農務課畜産係（69）
（朝鮮ノ畜産第三卷第四號掲載）
象ノ咽頭軟骨……………津崎孝道（74）
象ノ瞬膜軟骨……………川田信平（76）
象ノ寄生蟲……………小林晴治郎（77）
象心臓内血液ヨリ分離シ得タル桿菌……………綿引朝光（79）
朝鮮のアルカリ岩石に就て……………山成不二麿（81）⁴⁸

〈附録〉

- 朝鮮博物學會會務報告⁴⁹……………（97）
會計報告……………（99）
會員氏名録……………（100）
朝鮮博物學會々則⁵⁰……………（104）

⁴⁵ 第一輯では目次を兼ねる序言には各記事開始ページの記載なし。

⁴⁶ 目次はこのタイトルのみを示すが、実際には複数の記事で構成されている。

⁴⁷ 目次には 54 とあるが、実際には p.69 より開始。

⁴⁸ 目次には 76 とあるが、実際には p.81 より開始。

⁴⁹ 目次には「會務報告」とのみ記されている。

朝鮮博物學會雜誌

第 3 号⁵¹ (1925 年 12 月 15 日)

〈原著〉

- 朝鮮ノ漢方藥ト其ノ原料植物ニ就テ……………石戸谷勉 (1)
朝鮮ニ於ケル中生代植物群ニ就テ……………川崎繁太郎 (11)
朝鮮ノ雉ニ就テ……………森爲三 (21)
朝鮮及滿洲産松属ノ種類及分布ニ就テ……………植木秀幹 (35)
家蠶ニ於ケル致死因子ノ研究……………西川久 (48)
咸鏡南道高地ノ淡水魚ト胡蝶類……………森爲三 (54)
對馬産山椒魚ニ就テ……………津崎孝道 (60)

〈講話〉

- 傳書鳩ニ就テ……………平井檣次郎 (65)

〈會報〉……………(90)⁵²

- 朝鮮博物學會々則⁵³……………(92)

第 4 号⁵⁴ (1927 年 1 月 10 日)

〈原著〉

- 朝鮮産鳥類四新亞種……………籾山徳太郎 (1)
白頭火山 ^{原文ママ}脉 ⁵⁵……………川崎繁太郎 (7)
Hakto Volcanic Chain……………SHIGETARO KAWASAKI (19)
白頭山及附近高地帯ノ胡蝶類ト其ノ分布……………森爲三⁵⁶ (21)
Two New Plants form Mt.Hakuto……………TAMEZO MORI (24)
白頭山ノ植物區系ニ就テ……………^{原文ママ}森爲藏 ⁵⁷ (25)
白頭山植物目錄……………森爲三・梶原梅次郎 (39)
大蒜小蒜トハ何ゾヤ……………石戸谷勉 (55)

⁵⁰ 目次には「會則」とのみ記されている。

⁵¹ 裏表紙に英文目次を掲載する。

⁵² 目次には開始ページ記載なし。

⁵³ 目次には記載なし。

⁵⁴ 1926 年 12 月 25 日の大正天皇崩御をうけ、表紙次ページに会長川崎繁太郎の名前で弔辞(大行天皇陛下御登遐遊ハサレ惟恐懼ノ至リニ堪ヘス 茲ニ虔シテ哀悼シ奉ル)を掲載する。

⁵⁵ 本文では「白頭火山脈」

⁵⁶ 記事本文では「森爲藏」と誤記。

⁵⁷ 記事本文では「森爲三」と正しく記載。

〈雑報〉

白頭登山日記 …………… 加藤晴秀 (57)

外二項⁵⁸

朝鮮名いみんすトハドンナ魚カ …………… 森爲三 (65)

朝鮮産食虫植物ニ一種ヲ増加ス …………… 森爲三 (65)

Oedemagena tarandi ノ新宿主てうせんじやこうじか …………… 小林晴治郎 (65)

〈會報〉 …………… (66)

會員名簿 …………… (68)⁵⁹

朝鮮博物學會々則⁶⁰ …………… (74)

第 5 号 (1927 年 6 月 10 日)

〈原著〉

濟州島、樺太並ニ舊日本産烏鴉ノ新亞種 …………… 靱山徳太郎 (1)

Systematic Description of the Larvae of *Hoplia aureola*(Pall.)(Col. Famell.)
…………… JOZO MURAYAMA (12)

肺「ヂストマ」研究補遺 一 …………… 小林晴治郎 (20)

Notes on Lung-Fluke …………… Harujiro KOBAYASHI (27)

On Two New Mammals from Korea …………… Tamezo MORI (28)

On Four New Fresh Water Fishes from the River Liao(遼河), South Manchuria
…………… Tamezo MORI (30)

遼河ト黒龍江トノ淡水魚ト其ノ動物地理的の分布ニ就テ相互ノ關係ヲ論ズ
…………… 森爲三 (34)

水原西湖ノ魚類 …………… 森爲三⁶¹ (54)

〈講話〉

内部寄生吸虫類通説 …………… 小林晴治郎 (57)

〈雑録〉

鳥ト食物ト農林業トノ關係 …………… 森爲三 (85)

朝鮮⁶²ノ爬蟲類ニ未記録ノ一種ヲ増加ス⁶³ …………… 森爲三 (85)⁶⁴

⁵⁸ 「外三項」の誤記か。

⁵⁹ 表紙にはページ数記載なし。

⁶⁰ 表紙には掲載なし。

⁶¹ 記事本文では「森爲藏」と誤記。

昨夏白頭山登山博物講習會ノ獲物 ⁶⁵	森爲三	(86)
朝鮮産蟬類 ⁶⁶	森爲三	(87)

第 6 号 (1928 年 3 月 25 日)

〈講演〉

野菜ニ附着セル寄生虫卵	小林晴治郎	(1)
朝鮮ニ於ケル露天化鐵鑛床	市村毅	(7)

〈原著〉

朝鮮産蛙	岡田彌一郎	(15)
濟州島ノ兩棲類及爬蟲類ニ就テ	森爲三	(47)

On the Fresh Water Fishes from the Yalu River, Korea,
with Descriptions of New Species.

.....	Tamezo MORI	(54)
Solanum nigrum ノ花粉管發芽ノ研究	志水眞澄	(71)
朝鮮産延胡索ノ新種 ⁶⁷	石戸谷勉	(87)
朝鮮沿岸ニ於ケル貝類分布ノ概況	野村七平・波多江信廣	(92)
〈會報〉		(101)

第 7 号 御大典紀念號 (1928 年 12 月 25 日)

〈講演〉

生物學的水質検査法	小林晴治郎	(1)
牛馬ノ糞ガ好物ノ ^{こがねむし} 金龜子 ⁶⁸ 類	森爲三	(5)

〈原著〉

朝鮮ニ於ケル赤松ノ害虫ニ關シテ	齋藤孝藏	(10)
ほそをてふ Sericinus telamon ノ翅脈ニ就テ	土居寛暢	(14)

⁶² 本文は「朝朝ノ」と誤記。

⁶³ 表紙には記載なし。

⁶⁴ 本文のノンブルは「68」と誤植あり。

⁶⁵ 表紙には記載なし。

⁶⁶ 表紙には記載なし。西ヶ原の氏試験場の岸田久吉氏が作成した目録(セミ 9 種)を掲載。

⁶⁷ 本文タイトルは「朝鮮産延胡索ノ一新種」。

⁶⁸ 原文にもルビあり。

朝鮮産ほそをてふノ亞種ニ就テ	土居寛暢	(16)
朝鮮きたてはノ季節型ニ就テ ⁶⁹	土居寛暢	(19)
鬱陵島ノ植物區系ニ關スル考察(其ノ一) ⁷⁰	石戸谷勉	(21)
仁川地方ノ植物	武藤治夫	(26)
〈雜録 ⁷¹ 〉		(44)
大同江産淡水海綿	土居寛暢	(44)
まつのきはばち ⁷² ニ就テノ小觀察	土居寛暢	(46)
すかしはごろもノ幼虫	土居寛暢	(47)
朝鮮産うらぎんへうもんノ諸型ニ就テ	土居寛暢	(48)
朝鮮ニ於ケル <i>Apatura</i> ノ種類	土居寛暢	(49)
朝鮮植物雜記(其ノ一)	石戸谷勉	(50)
〈會報〉		(52)

第 8 号 (1929 年 6 月 30 日)

〈講話〉

赤痢「アミーバ」ノ培養ニ就テ	田邊操	(1)
----------------	-----	-----

〈原著〉

鬱陵島産鱗翅目	趙福成	(8)
On some Diatoms from Seiko lake of Chosen, Japan	B. W. Skvortzow	(9)
満洲産 <i>Viola</i> 屬植物總説	石戸谷勉	(15)
Nova Speco de <i>Viola</i> el Provinc Mancuria	Tsutomu Ishidoya	(18)
てうせんすじぼそやまきてふノ春型ニ就テ	土居寛暢	(19)
かんざう屬植物ニ就キテノ細胞學的研究	竹中要	(21)
〈雜録 ⁷³ 〉		(25)
朝鮮蝴蝶類目錄ニ新ニ追加スベキ一種ニ就テ	森爲三	(25)
はたねずみ朝鮮ニ産ス	森爲三	(25)
朝鮮産哺乳類化石目錄	森爲三	(25)

⁶⁹ 表紙タイトルは「季節型ニ就テ」、本文タイトルは「季節ニ就テ」。

⁷⁰ (其ノ一)は表紙掲載のタイトルにはなし。

⁷¹ 表紙には細目記載なし。

⁷² 表紙では「まつのきはばざ」と誤記。本文には「まつのきはばち *Lophyrus basalis*(Mats.)」の記載あり。

⁷³ 表紙には細目記載なし。

第9号 (1929年12月25日)

〈講話〉

- 人血液型ノ話……………佐藤武雄 (1)

〈原著〉

- 歴代本草ニ所載スル人蔘ノ原植物ニ關スル考察……………石戸谷勉 (7)

- 朝鮮産かなへびノ一新種ニ就テ……………土居寛暢 (17)

- Four New Ligneous Plants from Corea and Manchuria……………Homiki UYEKI (20)

- 朝鮮産イピニア種ノ甲蟲並ニ其一新種ニ就テ……………村山醸造 (22)

- On Two New Loaches of the Genus *cobisis* from Corea

- ……………WAKIYA & MORI⁷⁴(脇谷洋次郎・森爲三) (31)

- 家蠶雄蛾ノ二重交尾器ノ形態ニ就テ……………梅谷與七郎・唐澤侑衛 (34)

- 〈雜錄⁷⁵〉……………(40)

- こばねおほきりぎりす(新稱)……………森爲三 (40)

- 廣大ナル石灰洞ト洞窟内ニ存セシ動物ノ遺骨ニ就テ……………森爲三 (41)

- てうせんつのこがねノ新産地……………村山醸造 (43)

- のこぎりだいこくノ分布……………村山醸造 (43)

- てうせんかばいろこがねノ越冬……………村山醸造 (43)

- 〈會報〉……………(44)

- 〈會員氏名錄⁷⁶〉……………(48)

第10号 (1930年7月31日)

〈講話〉

- 藥草ノ話……………石戸谷勉 (1)

〈原著〉

- ケープタウンヨリアレキシサンドリア迄……………川崎繁太郎 (8)

- A New Species of *Microtus* from Korea……………Tamezo MORI (53)

- なつずみせんノ染色體(豫報)……………竹中要 (54)

- 〈雜錄⁷⁷〉……………(57)

⁷⁴ 本文では Yojiro WAKIYA and Tamezo Mori と記載。

⁷⁵ 表紙には細目記載なし。

⁷⁶ 表紙には記載なし。

⁷⁷ 目次には細目記載なし。

からふとまむし朝鮮ニ産ス	森爲三	(57)
まんしうもぐら朝鮮北部高地ニ廣ク分布ス	森爲三	(57)
再びてうせんつ ^{原文ママ} のこがねノ新産地ニ就テ	村山 ⁷⁸	(57)
ごみむしもどきこがね	村山	(57)
てうせんしまびろうどこがね(新稱)	村山	(58)

第 11 号 (1930 年 12 月 31 日⁷⁹)

〈講話〉

「マラリア」の話	小林晴治郎	(1)
----------	-------	-----

〈原著〉

A New Species of the Genus <i>Megaxyela</i> ASHMEAD from Korea (<i>Hymenoptera; Tenthredinidae</i> ⁸⁰)	Kaku SATO(佐藤覺)	(4)
Révisions des Familles des <i>Ipides</i> et des <i>Platypides</i> de CoréeJozo MURAYAMA		(6)
On the Fresh Water Fishes from the Tumen, River, Korea, with Descriptions of New Species	Tamezo MORI	(39)
朝鮮産アカボシウスバシロテフ(<i>Parnassius bremeri</i> Felder)ノ翅ノ變異ニ就テ森爲三		(50)
蛙ノ血液寄生虫原虫ノ研究(其一)	田邊操	(52)
〈會報〉		(77)

第 12 号 (1931 年 12 月 20 日)

〈講話〉

腸寄生虫ノ中間宿主トシテノ日本産魚類ニ關スル近來ノ業績	小林晴治郎	(1)
朝鮮ノ蟬	森爲三	(10)

〈原著〉

不稔性植物ノ細胞學的研究(續報)	竹中要	(25)
------------------	-----	------

⁷⁸ 村山醸造のことと推測される。

⁷⁹ 本文では 12 月 25 日発行とあるが、奥付は表紙と同じ 12 月 31 日である。

⁸⁰ 表紙目次には「*Hymenoptera; tenthredinidae*」なし。

逍遙山ノ蝶類	土居寛暢	(42)
うすいろをながしじみノ一新亜種ニ就テ	土居寛暢	(48)
めすあかしじみノ一新種ニ就テ ⁸¹	土居寛暢・趙福成	(50)
朝鮮産蟬ノ一新種ニ就テ	土居寛暢	(52)
朝鮮産螢ノ一新種ニ就テ	土居寛暢	(54)
朝鮮産鍬形蟲科ニ就テ	趙福成	(56)
〈新著紹介 ⁸² 〉		(61)
理學博士 三好學著 最新植物學		(61)
理學博士 瀨理一郎 ⁸³ 著 生理植物學		(61)
理學博士 木原均 農學士 山本幸雄 農學士 細野重雄 共著		
植物染色體數の研究		(62)
岩波講座生物學		(62)
理學博士 山羽義兵 ⁸⁴ 著 細胞		(62)
理學博士 矢部吉禎 ⁸⁵ 理學博士 大賀一郎 共著 パラディン植物生理學		(62)
〈會報〉		(63)

第 13 号 (1932 年 4 月 20 日)

〈原著〉

「カムルチ」 <i>Ophiocephalus argus</i> (Cantor)ニ見出セラレタル「トリパノゾーマ」並ニソノ培養	田邊操・齋藤兵治	(1)
Flagellaten aus Korea, Japan	B. W. Skvortzow	(8)
不稔性植物ノ細胞學的研究(續報)	竹中要	(11)
慶北ノ昆蟲目錄	上條齊昭	(13)
旅順港孤島ノ「シベリアマムシ」 <i>Agkistrodon halys intermedius</i> Strauchニ就テ	森爲三	(24)
てふせんくろらいてう <i>Lyrurus tetrix Koreensis</i> Moriノ飼育	植木秀幹	(26)
〈故本會名譽會員岡田信利氏略歴 ⁸⁶ 〉		(28)

⁸¹ 表紙タイトルは「一新種ニ就テ」、本文タイトルは「一新亜種ニ就テ」。

⁸² 表紙には細目記載なし。執筆はすべて竹中要である。

⁸³ 瀨瀨理一郎の誤記。

⁸⁴ 山羽儀兵の誤記。

⁸⁵ 矢部吉禎の誤記。

⁸⁶ 森爲三による紹介である。表紙次ページに肖像も掲載する。

〈雑録⁸⁷⁾〉

昆虫雑記	土居寛暢 (30)
------------	-----------

第 14 号 (1932 年 7 月 20 日)

〈原著〉

京城附近植物小誌	石戸谷勉・都逢涉 (1)
朝鮮産「ゲンゴロウ」科ノ一新種ニ就テ	森爲三 (49)
朝鮮産「ゲンゴロウ」科目録	森爲三 (50)
朝鮮産斑蝥科ニ就テ	趙福成 (54)
朝鮮産螢ノ一新種 <u>パパリボタル</u> ニ就テ	土居寛暢 (63)

〈雑録〉

昆虫雑記(二)	土居寛暢 (64)
---------------	-----------

第 15 号 (1933 年 1 月 31 日⁸⁸⁾)

〈講話〉

てうせんやぶか(朝鮮藪蚊)ノ生活史	小林晴治郎 (1)
-------------------------	-----------

〈原著〉

朝鮮産軍配蟲ノ新變種及未記録種ニ就テ(附、朝鮮軍配蟲ノ食餌植物)	齋藤孝藏 (5)
朝鮮産蟲癭ノ研究(第二報)	齋藤孝藏 (8)
朝鮮産ノ蚯蚓ニ就テ(1)朝鮮咸鏡北道鏡城ヲ中心トスル蚯蚓ノ數ニ就テ	小林新二郎 (11)
Notes Supplémentaires à la Revision des Ipides et Platypides de Corée. II.	JOZO MURAYAMA (14)
<i>Xyleborus</i> 屬ノ雄交尾器ニ就テ	村山醸造 (21)
木浦産兩棲類ノ一觀察	神邊利重 (36)
木浦産蜘蛛採集目録	神邊利重 (44)
慶北ノ昆虫目録(續)	上條齊昭 (46)
開城地方ノ蝶類	石宙明 (64)

⁸⁷ 表紙には「會報」とあるが誤記か。「雑録」の表示はなし。

⁸⁸ 奥付は 2 月 13 日。

朝鮮産蝶類ノ未記録異常型及「ウラギンヘウモン」ノ斑紋ノ變異性	石宙明	(73)
朝鮮産數種ノ蚜蟲	高橋良一	(78)
朝鮮産「カブトムシ」ノ變異ニ就テ	趙福成	(81)
〈雜録〉		
しらやまぎくノ虫癭ニ就テ	齋藤孝藏	(85)
昆虫雜記(三)	土居寛暢	(85)
珠數胃蚯蚓(<i>Deawida</i> sp.)朝鮮咸北ニモ産ス	小林新二郎	(96)
「テウセンクロライテウ」 <i>Lyrurus tetrax</i> <i>Koreensis</i> Mori 咸鏡南道ニ分布ス	森爲三	(97)
「アカボシウスバシロテフ」 <i>Parnassius bremeri conjuncta</i> Stgr.朝鮮ノ南方慶州ニ於テ採集サル	森爲三	(98)
「テウセンミンミン」 <i>Oncotympana coreana</i> Kato ⁸⁹ ノ綠化種	森爲三	(98)
〈新著紹介 ⁹⁰ 〉		(99)
三好學著 最新實驗植物學		(99)
〈會報 ⁹¹ 〉		(100)
〈會員名簿〉		(105) ⁹²

第 16 号 (1933 年 7 月 31 日)

〈原著〉

朝鮮産翼手目二種ニ就テ	森爲三	(1)
On Two New Bats from Corea	TAMEZO MORI	(4)
朝鮮ノ「テウザメ」ニ就テ 附 支那ノ「テウザメ」及東亜「テウザメ」檢索表	森爲三	(6)
Description of a New <i>Cicidela</i> from Korea	T.KANO & F.S.CHO(鹿野忠雄・趙福成)	(11)
A New Species of <i>Leptobotia</i> , Cobitinae, from Manchuria	TAMEZO MORI	(13)
朝鮮産天牛類雜記	玉貫光一	(14)

⁸⁹ 表紙目次には「*Oncotympana coreana* Kato」なし。

⁹⁰ 表紙には細目記載なし。執筆は竹中要である。

⁹¹ 会報中, p.103 に加藤晴秀(京城中学校教諭), 松野紋治(本文では役治と誤記。前羅南小学校長)の追悼記事あり。p.104 に「故幹事加藤晴秀君略歴」を掲載する。執筆は森爲三である。

⁹² 表紙には 103 とあるが実際には 105 より始まる。

朝鮮産蘚類植物目録	笹岡久彦	(23)
朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ	田邊操	(34)
蜥蜴ノ腸管寄生原虫類、特ニ「モノチエルコモナス」 <i>Monocercomonas</i> 種ニ就テ	田邊操	(36)
朝鮮ノ「ギリギリス」科ニ就テ(豫報)	森爲三	(50)
〈雑録〉		
冠帽連峰高山植物採集記	竹中要	(57)

第 17 号 (1934 年 2 月 28 日)

〈原著〉

龜鼈類ニ見出シタル「アメーバ」ノ形態並ニ培養	小倉勝千代	(1)
朝鮮産南京蟲ニ就テ	長花操	(6)
朝鮮産粘菌目録	中田九一	(17)
朝鮮産蝶ノ一新種及 <u>ひろすぢこへうもんもどき</u> ノ一新型ニ就テ ⁹³	土居寛暢・趙福成	(34)
朝鮮産天牛類ニ就テ	齋藤孝藏	(36)
朝鮮産天牛科甲蟲數種ニ就テ	趙福成	(39)
Notes on the Woody Plants of Chosen	H.UYEKI	(51)
One New and Two Unrecorded Species of Cyprinidae from Manchuria	TAMEZO MORI	(57)
A New Species of <i>Cryphalinae</i> (<i>Coleope, Ipidae</i>) from Korea	JOZO MURAYAMA	(59)
白頭山ニ産スル普通ナル地衣	上田常一	(61)

〈雑録〉

昆虫雑記(四)	土居寛暢	(64)
軍配蟲ノ未記録種一種追加	齋藤孝藏	(69)
咸鏡北道冠帽峰及其附近所産ノ胡蝶類ト甲蟲類	趙福成	(69)
〈會報 ⁹⁴ 〉		(86)
〈會員名簿〉		(90) ⁹⁵

⁹³ 表紙では下線なし。

⁹⁴ p.88 より寄贈交換図書目録を掲載する。

⁹⁵ 表紙には 88 とあるが実際には 90 より始まる。

第 18 号⁹⁶ (1934 年 6 月 30 日⁹⁷)

〈講話〉

肺吸蟲(肺臟「ヂストマ」)ノ第二中間宿主もくづがに……………小林晴治郎(1)

〈原著〉

朝鮮軟體動物目録……………芝昇 (6)

てうせんきんぎよニ寄生スル *Henneguya* 屬ノ一新種ニ就テ

朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ 其 15……………芝昇 (32)

さんせううを *Hynobiidae leechii* Boulenger ノ寄生原蟲類ニ就テ

朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ 其 16……………田邊操 (43)

〈文獻〉

朝鮮ニ關係アル軟體動物文獻目録……………芝昇 (51)

朝鮮ノ農業昆蟲ト主ナル文獻ノ目録……………中山昌之介 (67)

動物學ニ縁故アル朝鮮關係ノ獸醫學方面ニ於ケル近來ノ業績……………一色於菟四郎 (77)

家蠶及病害蟲竝々蠶ニ關スル文獻……………梅谷與七郎 (91)

朝鮮ノ昆蟲一汎ニ關スル文獻目録……………土居寛暢 (95)

〈雜録〉

白頭山地方動物採集記 附 開城産しべりあまむし……………石宙明 (129)

昆蟲雜記(五)……………土居寛暢 (137)

からふとまむしノ新産地……………土居寛暢 (140)

第 19 号 (1934 年 9 月 30 日)

〈原著〉

Three new Korean eartworms belonging to genus *Pheretima*, together
with the wider range of the distribution of *Pheretima Kilgendorfi*(Michaelson)
……………SHINJIRO KOBAYASHI (1)

補訂朝鮮産魚類目録……………森爲三・内田恵太郎 (12)

Description of a new *Temnasps*-species from Corea (COL CHRYSOMELIDAE.)
……………MICHIO CHÛJÔ(中條道夫) (34)

Une nouvelle espece de Searabeide de la Coree……………JOZO MURAYAMA (35)

⁹⁶ 表紙裏ページに第 10 回動物学会大会の案内を掲載する。大会は 1934 年 9 月 30 日・10 月 1 日に京城帝国大学医学部にて開催され、京城帝国大学医学部に準備委員会が結成されていた。

⁹⁷ 奥付は 7 月 18 日。

〈文獻〉

- 朝鮮人體質人類學ニ關スル文獻目録……………島五郎 (36)
朝鮮關係ノ比較解剖學的方面ノ文獻……………津崎孝道 (70)
朝鮮ノ寄生蟲ニ關スル文獻……………長花操・中田薫 (88)
朝鮮ニ於テ發表セラレシ朝鮮脊椎動物ノ文獻目録……………森爲三 (170)

〈雜録〉

- 朝鮮産蠅虻科雜記……………上條齊昭 (176)

第 20 号 (1935 年 4 月 30 日)

〈原著〉

- 朝鮮産金龜子ノ未記録珍種並ニ新種ニ就テ……………村山醸造 (1)
京都帝國大學冬季白頭山探検隊ノ採集セシ鳥類及哺乳類ニ就テ……………森爲三 (10)
Notulae ad Dendrologiam Koreae (1)……………H.UYEKI (15)
Plantae Novae ad Floram Koreanam……………TOSHIWO SAKATA(佐方敏男) (19)
樹木ノ枝條ニ輪狀剥皮又ハ刺列ヲ施ス昆蟲……………齋藤孝藏 (23)
生物學的液體ノ水分微量定量法並ニ其ノ二三生物學的檢索……………黒田嘉一郎 (27)
朝鮮産頸長蟲科(Cephaloidae)ニ就テ……………趙福成 (48)

〈雜録〉

- 昆蟲雜記(六)……………土居寛暢 (54)
咸北合水附近ノからふとまむし再報……………土居寛暢 (62)
コノ頃噂サノ藥蟲……………森爲三 (63)

〈會報〉

〈新刊紹介⁹⁸〉

- 原色朝鮮の蝶類(森爲三・土居寛暢・趙福成、大阪屋號書店)……………(70)
朝鮮農作物主要害虫と其防除法(中山昌之介、朝鮮農會)……………(70)

第 21 号(1936 年 7 月 31 日⁹⁹)

〈原著〉

- 秋季ニ於ケル水原西湖ノぷらんく とん……………羽田良禾 (1)

⁹⁸ 表紙目次には細目記載なし。執筆は村山醸造である。

⁹⁹ 奥付では 9 月 30 日。

朝鮮産異翅目ニ就テ	山田満寛	(12)
慶尚北道ノ近海デ獲レタ「ヒキガニ」ノ一亜種 ¹⁰⁰		
<i>Hyas coarctatus alutaceus</i> BRANDT ニ就イテ	上田常一	(27)
朝鮮海峡沿岸ノ蟹類	上田常一	(30)
朝鮮産叩頭蟲科數種ニ就テ	望月學	(36)
朝鮮産所謂「ウラギンヘウモン」ノ變異並ニ其學名ニ就テ	石宙明	(38)
<i>Pheretima</i> (<i>Ph.</i>) <i>hilgendorfi</i> (MICHAELSEN)(一ツ紋ミミズ)の孵化ニ關スル二三ノ觀察	小林新二郎	(42)
<i>Pheretima</i> (<i>Ph.</i>) <i>vittata</i> (GOTO et HATAI)from Japan and Korea	Shinjiro KOBAYASHI	(52)
すいばノ細胞學的並遺傳學的研究(續報)		
III 雌型並雄型間性植物 ¹⁰¹	竹中要	(58)
朝鮮產地膽科目録	趙福成	(77)
木浦附近ニ於ケル趨光性昆蟲ノ調査(第一報)	上條齊昭	(84)
〈講演〉		
ハンノキ類林ノ小觀察	村山醸造	(90)
〈雜録〉		
昆蟲雜記(七)	土居寛暢	(102)
朝鮮近海産おさがめニ就テ	土居寛暢	(109)
朝鮮産たいりくひばかりトしべりあまむしニ就テ	石宙明	(113)
慶北産昆蟲目録(其ノ一)	白甲鏞	(115)
〈會報〉		(126)
〈新刊紹介 ¹⁰² 〉		
Motte, Jean(1935), <i>Castanea crenata</i> Sieb. Et Zucc. Esquisse d'un Répertoire des Variétés japonaises. (Bulletin de la Maison Franco-Japonaise. Tome 7, No.1.)		(130)
日本巨樹名木圖説(三好學、刀江書院)		(130)

¹⁰⁰ 表紙題目では「一亜種」。本文題目では「1 亜種」。

¹⁰¹ 表紙目次にはサブタイトルなし。

¹⁰² 表紙目次には細目記載なし。 *Castanea Crenata, sieb. Et zucc., esquisse d'un répertoire des variétés japonaises* 紹介の執筆者は村山醸造である。

第 22 号(1937 年 9 月 1 日)

〈講演〉

- 朝鮮在住民ノ生命表(抄録) ……………水島治夫 (1)
朝鮮ノ第四紀火山ニ就テ ……………木野崎吉郎 (3)

〈原著〉

- 朝鮮産象鼻蟲科ノ昆蟲 ……………河野廣道・金憲奎 (9)
朝鮮産金龜子ノ未記録珍種及二新種ニ就テ(其二) ……………村山醸造 (32)
鬱陵島産小形哺乳類 ……………森爲三 (40)
朝鮮産ヂグモ科ニ就テ ……………白甲鏞 (43)
朝鮮産天牛科甲蟲數種ニ就テ(其三) ……………趙福成 (45)
廣島県産毛翅口幼蟲ニ就テ ……………山田滿寛 (49)
朝鮮産叩頭蟲科數種ニ就テ(二) ……………望月學 (55)
朝鮮産 Calosoma 屬ノ甲蟲ニ就テ ……………森爲三・趙福成 (56)

〈雜録〉

- 染色體雜記(其ノ一) ……………竹中要 (59)¹⁰³
昆蟲雜記(八) ……………土居寛暢 (62)
木浦附近ニ於ケル趨光性昆蟲ノ調査(第二報) ……………上條齊昭 (65)
慶北産昆蟲目録(其ノ二) ……………白甲鏞 (70)
中部朝鮮産鞘翅類目録 ……………望月學・恒川和郎 (75)
三度てうせんつのこがねノ新産地ニ就テ ……………村山醸造 (93)
壹岐島産淡水魚類¹⁰⁴ ……………森爲三 (94)
朝鮮博物學會々則¹⁰⁵ ……………(96)
寄稿規定(昭和十二年九月実施¹⁰⁶) ……………(97)

第 23 号(1938 年 9 月 1 日)

〈講演〉

- 「ヴァイラス」ニ就テ ……………細川正一 (1)

¹⁰³ 表紙目次では p.60 とするが p.59 より開始。

¹⁰⁴ p.95 に小田先生頌壽記念會編『小田先生頌壽記念朝鮮論集』(大阪屋號書店, 1934 年 11 月)掲載の「朝鮮石器時代ノ犬科ニ就テ」についての訂正を掲載する。

¹⁰⁵ 目次には記載なし。続けて投稿規定(自昭和 12[1937]年 9 月実施)が掲載される。

¹⁰⁶ この号以降、寄稿規定は奥付部分に掲載される場合がある。

〈原著〉

- 鬱陵島産小形哺乳類(其ノ二) …………… 森爲三 (16)
 朝鮮海岸ノ海膽類及海星類 …………… 上田常一 (19)
 京城府内朝鮮家屋ノ屋根上ニ生ズル顯花植物 …………… 上田常一・柳慶烈・柳明烈 (24)

〈雑録〉

- 朝鮮鳥類目録ニ一種ヲ追加 …………… 森爲三 (32)
 鬱陵島鳥類目録 …………… 小林時弘 (33)
 朝鮮咸鏡北道産蘚苔類植物標本目録(第一報) …………… 齋藤龍本 (36)

〈新著紹介¹⁰⁷⁾

- 櫻(三好學、富山房) …………… (70)

第 24 号 (1938 年 12 月 31 日)

〈原著〉

- 鬱陵島毛翅目幼蟲及蛹ニ就イテ …………… 山田満寛 (1)
 朝鮮各地ニ於ケル殖林苗圃内ノ貧毛類ニ就テ …………… 小林新二郎 (6)
 甘藷ノ育種ニ就テ …………… 繁村親 (19)
 男性ほるもんノ雄まうす副腎皮質ニ及ス影響 …………… 西田司一 (26)

〈雑録〉

- 朝鮮産葉蜂科目録(其一) …………… 土居寛暢 (29)
 昆蟲雜記(九) …………… 土居寛暢 (36)
 朝鮮産 *Erebia* 屬ノ數種ニ關係アル文獻 …………… 石宙明 (38)
 朝鮮ニ毒蛾ノ襲來 …………… 上田常一 (39)
 朝鮮ノひざらがひ科四種 …………… 上田常一 (42)

第 25 号¹⁰⁸⁾ (1939 年 5 月 20 日)

〈原著〉

- 朝鮮産どちやう(*Misgrnus anguillicaudatus* C.)ヨリ得タル
 いかりむし(*Lernaea elegans* LEIGH SHARPE 1925)ニ就テ …………… 本多大輔 (1)
 濟州島及ビソノ近海ノ魚類相ニ就テ …………… 内田恵太郎・矢部博 (3)

¹⁰⁷⁾ 表紙目次には細目記載なし。執筆は竹中要である。

¹⁰⁸⁾ 最終ページ p.38 に脇谷洋次郎逝去の報を掲載。

極東蠍(きよくとうさそり ¹⁰⁹)ノ第二次性徴	沖波實 (17)
蒙疆及北支地方産家畜ノ内部寄生蟲ニ關スル研究(豫報 I)	一色於菟四郎 (20)

第 26 号 (1939 年 8 月 20 日)

〈原著〉

朝鮮産アカネトシボ屬ノ二新種ニ就テ	土居寛暢 (1)
朝鮮産蘚植物総目録(其一)	樫村一郎 (7)
朝鮮産蝶類ノ研究史	石宙明 (20)
蝶ニ關スル朝鮮古典ノ解説	石宙明 (61)
朝鮮産 <i>Pachyta</i> 屬ノ天牛類ニ就テ	趙福成 (66)
蒙疆及北支地方産家畜ノ内部寄生蟲ニ關スル研究(豫報 II)	一色於菟四郎 (69)

〈講演〉

光合成ニ及ボス媒液ノ變動ト原形質ノ状態トノ關係	松島眞次 (90)
倍数性ノ誘發トくるきしん並あせなふてんノ作用ニツイテ(綜合抄録 ¹¹⁰)	竹中要 (93)

〈會報〉	(94)
------	------

第 27 号¹¹¹ (1939 年 12 月 20 日)

〈原著〉

遮日峯採集ノ鳥獸類ニ就テ	森爲三 (1)
遮日峯ノ直翅目	森爲三・趙福成 (4)
朝鮮産 Urostybunae(異翅亞目)ニ就テ	土居寛暢・田中三夫 (5)
咸北高地帯産蝶類採集記	石宙明 (10)
くまごけノ分布ニ就イテ	樫村一郎 (19)
朝鮮産食蟲植物ニ就イテ	朴萬圭 (23)
蒙古ノ昆蟲類(其ノ一)	森爲三・趙福成 (26)

〈會報〉	(40)
------	------

〈朝鮮博物學會々員名簿〉	(43)
--------------	------

¹⁰⁹ 表紙タイトルは「きよくとうさそり」、本文タイトルは「キョクトウサソリ」。

¹¹⁰ 日本遺伝学会京城談話会(1939 年 5 月 27 日)においての講演要旨。

¹¹¹ p.25 に寺西暢、三明和郎逝去の報を掲載。

第 7 卷¹¹² 第 28 号 (1940 年 8 月 20 日)

〈原著〉

満洲國萬家嶺産ノひるみゝず類……………籠屋留太郎 (1)

ひめあめんぼノ腸管内ニ寄生セル鞭毛蟲ノ形態

朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ 其 20……………沖波實 (9)

一濠南啓宇ノ蝶圖ニ就テ(第 2 報)……………石宙明 (15)

〈朝鮮博物學會雜誌目録¹¹³〉……………(20)

第 7 卷 第 29 号 (1940 年 12 月 25 日)

〈原著〉

内蒙古ニ於テ駱駝ノ臀部糜爛傷中ニ見出シタル *Wohlfahrtia magnifica* 幼蟲ニ就テ
……………保田宗武 (27)

日本産 *Gyrodactylus* ノ三種類……………福田眞杉 (37)

〈雜録¹¹⁴〉

雄性孔ヲ欠クタミゝズ(*Pheretima*)ノ廣布性ナルコトニ就テ……………小林新二郎 (44)

〈會報〉……………(45)

〈朝鮮博物學會々員名簿〉……………(46)

第 8 卷 第 30 号 (1941 年 2 月 25 日)

〈原著〉

仁川近海ニ於ケル海産動物相(特ニ無脊椎動物ニ就テ)……………上田常一・佐藤月二 (1)

妙香山ノ地衣……………佐藤月二 (4)

〈雜録〉

朝鮮産蘚植物總目録(其ノ二)……………樫村一郎 (10)

編輯後記……………(22)

¹¹² この号より「巻數」が加えられた。p.26 に「第 28 號以降 2 カ年間に發行される諸號を通し頁とし夫れ等を卷として纏めることに致します。」と説明がある。表紙次ページには朝鮮博物学会会長を務めた川崎繁太郎への追悼文(朝鮮総督府地質調査所長・立岩巖)と肖像を、p.19 に逝去の報を掲載する。

¹¹³ 第 1~27 号を収録。

¹¹⁴ 表紙には細目記載なし。

第8巻 第31号 (1941年6月30日)

〈原著〉

- 蒙疆^{原文ママ}¹¹⁵包頭附近ノ淡水魚ニ就テ……………森爲三 (23)
- 朝鮮産 plataspinae(異翅亞目)ニ就イテ……………田中三夫 (26)
- 蒙古ノ昆蟲類(其二)……………森爲三・趙福成 (28)
- 朝鮮植物資料(其一)……………朴澤茂雄 (32)

〈雜録〉

- 朝鮮ノ巨樹名木(其一)……………植木秀幹 (36)

第8巻 第32号 (1941年12月30日)

〈原著〉

- 朝鮮産天牛科甲蟲數種ニ就テ(其四)……………趙福成 (38)
- 朝鮮ニ饒産スル五種ノ蝶ノ変異及ビ分布ノ研究(其四)……………石宙明 (39)
- 赤血球媒體ノ最大溶血濃度……………中村拓 (53)

第9巻 第33号 (1942年1月30日)

〈原著〉

- 朝鮮産高山植物目録……………朴萬奎 (1)
- 朝鮮鬱陵島ノ天牛類ニ就テ(其ノ一)……………森爲三・趙福成 (12)
- 滿洲國所産天牛科甲蟲數種ニ就テ……………森爲三・趙福成 (18)
- 「テフセンヤブカ」(朝鮮藪蚊)ノ幼蟲ノ形態的研究……………沖波實 (20)
- 花粉統計法トソノ基礎ニツイテ……………松島眞次 (24)

第9巻 第34号 (1942年4月30日)

〈原著〉

- 宿主組織内ニ於ケル蛔幼蟲ノ形態學的研究……………中田薫 (29)
- 赤松ヲ加害スルきくひむし類ノ生態ニ就テ……………細谷達雄 (42)
- 平北鴨綠江沿岸地帯産蝶類採集記……………石宙明 (49)

¹¹⁵ 本文タイトルも「蒙疆」と誤記。

平安北道國境地帶所産天牛科甲蟲目錄……………趙福成	(54)
〈雜録〉	
朝鮮の巨樹名木(其二)……………植木秀幹	(59)

第9巻 第35号 (1942年7月30日)

〈原著〉

朝鮮産海藻目錄……………山本孝治・川本留之助	(61)
朝鮮産鋏形蟲科……………増井正幹	(66)
朝鮮産 <i>Pascothea hilaris</i> 「キボシカミキリ」ニ就イテ……………谷川清	(72)
朝鮮植物資料(其二)……………朴澤茂雄	(81)
補訂 開城地方ノ蝶類……………石宙明	(86)
朝鮮産きたてはノ變異研究追報……………石宙明	(94)
〈朝鮮博物學會々員名簿 ¹¹⁶⁾ ……………	(95)
御知ラセ ¹¹⁷⁾ ……………	(98)

第9巻 第36号 (1942年10月30日)

〈原著〉

「モルモツト」ノ蝸牛殻ニ見出サレタ「コクチデウム」 ^{原文ママ} <i>Coccidium</i> ?ニ就テ……………田邊操	(99)
「モウコハツカネヅミ」カラ見出シタ <i>Tetrathyridium</i> sp.ニ就テ……………沖波實	(104)
朝鮮産蛙ノ吸蟲類(第一報) <i>Loxogenes liberum</i> Seno 及ビ <i>Pleurogenes japonicus</i> Yamaguti ニ就テ……………神田哲	(106)
朝鮮産蛙ノ吸蟲類(第二報) <i>Glypthelmins rugocaudata</i> (Yoshida) 及ビ <i>Diplodiscus amphichrus</i> Tubangui ニ就テ……………神田哲	(110)
朝鮮産「カハニナ」類ニ就テ……………宮永宗男	(114)
日本産温泉植物ノ研究XX 朝鮮黃海道諸温泉ニ産スル藻類……………江本義數・廣瀬弘幸	(130)
小五臺山の植物……………竹中要	(144)

¹¹⁶⁾ 表紙には記載なし。

¹¹⁷⁾ 表紙には細目表記なし。朝鮮博物学会と京城日報社の共催で石宙明所蔵蝶類標本展示を三井百貨店でいう案内である。

第9巻 第37号 (1942年12月30日)

〈原著〉

- 朝鮮産「アメンボ」科ニ就テ 田中三夫 (157)
「カウライナキウサギ」 *Ochotona(Pika) hyperborea Coreana Allen et Andrews*
ヨリ得タル「トロンビクラ」ノ一新種 *Trombicula hiranumai n. sp.*ニ就テ
..... 神田哲 (173)
倍数性ト氣孔ノ大サトノ關係Ⅱ. 萱草屬植物ニ就イテ
..... 竹中要・宮崎捷・松島巖・金森健一 (179)
永興地方ノ蝶類 石宙明・王鎬 (182)
平安南道ノ蝶相 石宙明・海龍喆楡 (185)

第10巻 第38号 (1943年8月30日)

〈原著〉

- 朝鮮ニ於ケル「バランチデウム」ノ研究 1. 豚ノ「バランチデウム」ノ形態
朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ 其 ^{原文ママ}20¹¹⁸ 竹森勇 (1)
アミミドロ(*Hydrodictyon sp.*)ノ生長及ビ分裂 竹中要・松島巖 (15)
北朝鮮蝶類採集記 石宙明 (16)
南朝鮮鳥類採集記 石宙明 (28)
〈會報〉 (35)

第10巻 第39号 (1944年4月30日)

〈原著〉

- 食植性鞘翅目昆蟲類ノ習性上ヨリ觀タル系統(其ノ一) 齋藤孝藏 (1)
釜山産山椒魚竝ニ其生態ニ就テ 一色於菟四郎・緒方成人 (5)
遺傳ニ及ボス超音波ノ影響(Ⅱ) 黒猩猩ノ發生ニ及ボス影響 武部啓 (17)
若キ朝鮮牛ニ於ケル肝蛭(*FASCIOLA HEPATICA*)ノ感染率、異所の寄生例竝ニ若肝蛭ノ
寄生ニ起因スル多發性竈狀性肝臟炎
I. 若キ朝鮮牛ニ於ケル肝蛭ノ感染率竝ニ異所の寄生例 一色於菟四郎 (21)
II. 若肝蛭ノ寄生ニ起因スル多發性竈狀性肝臟炎 一色於菟四郎 (30)

¹¹⁸ 第7巻第28号に「朝鮮ニ於ケル人以外ノ動物寄生原蟲類ニ就テ 其20」として沖波實「ひめあめんぼノ腸管内ニ寄生セル鞭毛蟲ノ形態」が掲載されている。

〈雑録〉

- 海州附近ノ蝶相 小林崇・交野忠清 (40)
- 〈朝鮮博物學會々員名簿〉 (43)

第 10 卷 第 40 号 (1944 年 9 月 20 日)

〈原著¹¹⁹〉

- 京城府ニ於ける鉤蟲(十二指腸虫)仔蟲ニヨル土壤汚染状態ニ就テ
..... 岡村嘉彦・重松郁夫 (1)
- 南京鼠ノ腸ニ寄生セル *Catenotaenia pusilla*(Goeze, 1782) Janicki 1904 ニ就テ
..... 三宅博 (7)
- 「カウライナキウサギ」ノ小腸ニ寄生セル *Oochoristica* sp.ニツイテ 三宅博 (11)
- 腸管寄生鞭毛類ニ關スル研究 第一編
 Enteromonas hominis, *Chilomastix mesnili* 及 *Trichomonas hominis* ノ培養並ニ
 培養蟲體ノ形態 高宮勇 (15)

〈雑録〉

- 眞杉君と私 樽見義一 (28)
- 故醫學士福田眞杉君ヲ弔フ 小林晴治郎 (31)
- 〈會報〉 (33)

¹¹⁹ 表紙には「原著」「雑録」「會報」等の区分なし。